

群馬の人材育成法紹介

都内で産学官連携シンポ



産学官連携による中小製造業の人材育成を考えるシンポジウム（経済産業省、日本機械学会主催）が六日、都内で開かれた。本県は産学の協力で新年

本県のアナログ人材育成の特徴を説明する古仙さん（右から三人目）

度から始める群馬アナログカレッジを紹介、「県モデルを全国に役立てたい」とPRした。

パネルディスカッションは群馬大教授の須斎嵩さんがコーディネーターを務め、企業、大学、国と地方自治体の代表五人が人材育成システムの最新事例を発表した。

県産業政策課の古仙孝一さんは群馬大に運営を委託し、企業OBでつくるNPO法人や企業がマシンパワーや機材を提供するアナログカレッジの概

要を解説。会場の質問に答え、「若い人への指導が主な目的だが、団塊の世代やOBも講師を務めることで、教える技術を高められる」と幅広い効果を説明した。

北関東を中心に人材育成に取り組んでいる須斎さんは、「大学は敷居が高いといわれているが、（従業員）五人、十人の規模でも参加している」と強調、企業側の利用を呼びかけた。

シンポは資金や人的な面から、自前での人材育成が難しい中小企業を支援しようと企画。産学官から二百五十人が参加して意見交換した。